

右優位の前頭葉内側・頭頂葉内側・帯状回の著明な脳萎縮が見られ未治療高齢者統合失調症が疑われた一例

渡辺病院 稲山靖弘

【はじめに】現在まで統合失調症の脳画像研究において、前頭葉、側頭葉、帯状回、海馬の体積減少が指摘されている。今回、右優位に前頭葉内側・頭頂葉内側・帯状回に萎縮が見られた未治療高齢者統合失調症の一例を経験したので若干の考察を加えて報告する。

【症例】80 歳代後半、女性。

【初診時主訴】泥棒に物を盗られる。

【既往歴】精神科受診歴なし。

【家族歴】特記すべきことなし。

【病前性格】怒りっぽい。

【生活歴】20 歳半ば結婚、2 児出産、その後離婚、30 歳頃複数回仕事を代わるもなどに続かなかつた。40 歳頃、店を開店したが運営は子供らにさせていた。

【現病歴】X-50 年頃、自宅に引きこもり、独り言をいって仕事をしなくなった。生活費は子供たちがアルバイトをして支えた。X-45 年頃、「財産を取られる」といって、近くのゴミを自宅にもちかえることがあった。X-16 年、福祉の援助を受け生計をたてていた。X-1 年、日常生活が出来なくなり老人ホームに入所するも、X 年夏、冬服を着て脱水になり、また「物を盗られた」というため当院受診。

【現症】ほぼ静穏、「私はゲーム機を売って家 3 軒建てた。大金持ちだ。」という。

【検査所見】HDS-R10、SDS34、バウムテスト：「さくら」の文字を小さく記入、立体模写：不正解、着衣失行：なし。

【脳画像】頭部 MRI：右優位に前頭葉・頭頂葉内側・帯状回に脳萎縮を認める。

【治療経過】鑑別診断として、今までの経過と、側頭葉にナイフ状の萎縮もなく、脳萎縮の左右差が著明であることからピック病、アルツハイマー病を否定した。診断は臨床経過、臨床症状から未治療の高齢者統合失調症が疑われた。その後、気に入らない入所者を杖で叩くため、クエチアピン 25mg 投与したところ、静穏になり、入浴も可能になった。【考察】今回の症例は、変性疾患の認知症ではなく、未治療統合失調症と思われ、右優位に前頭葉・頭頂葉内側・帯状回に脳萎縮は、中年期からの奇異な行動、すなわち統合失調症との関係が示唆された。